



小山田久市長と丸井英子教育長が答弁しました

7月25日、市役所の市議会議場で「とわだ子ども議会」を開催しました。

この「子ども議会」は、子どもの意見に耳を傾け、まちづくりに生かす機会にするとともに、子どもたちが議会を模擬体験することで、議会や市役所の仕組みを学び、質問を通して市について考え、郷土を愛する心を育むことを目的に、平成25年から行っています。

例年、小学6年生のみを対象としていましたが、本年度は初めて中学生も対象とし、市内の小学生10人と中学生6人が子ども議員として参加しました。

今回の子ども議会では、議長の畑山結香さんと副議長

の岩崎彪雅さんによる議事進行の下、子ども議員が市の総合計画の8つの基本目標をテーマに市政に対する質問を行いました。

通常の議会では、質問者に対して拍手はできませんが、子ども議会では特別ルールが設けられ、素晴らしい質問や提案を堂々と発表する姿に、傍聴席から拍手が送られました。

事前に行われた勉強会の様子を市ブログで紹介していますので、ぜひご覧ください。

ブログ「駒の里から」



▲ 子ども議会終了後、小山田市長、北館康宏副市長、丸井教育長と当選証書を手に記念撮影

**基本目標1**  
市内外からより多くの人々や消費を呼び込めるまち（産業振興）



**質問** 公共バスの現在位置や経路を確認できるアプリを作成してはどうか。  
**答弁** 令和4年度から、市が運行する循環バスや一部の路線バスにスマートフォンなどでバスの現在位置や経路を確認できる「バスロケーションシステム」を導入している。今後も引き続きバス利用者の利便性向上を図りたい。

**基本目標2**  
地域全体で子育て・育ちをしっかりと支えるまち（子育て・教育）



**質問** 市民が読まなくなった本を市民図書館に寄贈してはどうか。本のリユースにもつながる。  
**答弁** 市民図書館では市民から本の寄贈を受け入れているほか、家庭で読み終わった本を収集・提供する「本のリサイクルフェア」を毎年開催している。今後は廃校になった学校の図書を提供することも検討したい。

**基本目標3**  
すべての市民が健やかに暮らせるまち（健康・福祉）



**質問** けが人や高齢者なども利用しやすいように公共施設の壁や玄関に手すりを設置してはどうか。  
**答弁** バリアフリーを目指すことは重要なことと考えている。今後、総合体育センターなどで調査し、手すりやベンチの設置など、誰でも利用しやすいように施設の改善を検討していきたい。

**基本目標4**  
たれもが楽しく学び、豊かな心と文化が息づくまち（生涯学習・文化・スポーツ）



**質問** 郷土への誇りや愛着を深めるため、小・中学校で市にゆかりのある人物の講演会を開催してはどうか。  
**答弁** 市では、市の発展に尽くした人々について小学校社会科の副読本に掲載したり、郷土館に展示したりするほか、地域の人や著名人による講演会を開催しているため、ぜひ見てほしい。

**基本目標5**  
地域で助け合い、災害に強く犯罪のない、安全・安心なまち（安全・安心）



**質問** 外国人が安心して生活できるよう、外国人と交流して文化を理解する機会をつくらせてはどうか。  
**答弁** 市では、ホームページでの外国語による情報発信や、国際交流を推進する市民団体の活動支援に取り組んでいる。今後は海外からの観光客も含め、どのような交流ができるか考えていきたい。

**基本目標6**  
ゆとりと潤いあふれる暮らしを実感できるまち（環境）



**質問** ごみの少ないまちづくりのため小・中学校で「ごみ拾いゲーム」を実施してはどうか。  
**答弁** 市内の小・中学校では、空き缶のリサイクル活動や地域のクリーン作戦など、ごみを削減する取り組みを実施している。「ごみ拾いゲーム」の良いところについても各小・中学校で紹介したい。

**基本目標7**  
快適な暮らしや活発な経済活動を支える都市基盤が整ったまち（都市基盤）



**質問** 市が運行するバスを増やし、アンケート調査で経路などを決めてはどうか。  
**答弁** 昨年、アンケート調査を行い、本年度は市街地循環バス・西地区シャトルバスの運行本数を増やしたほか、バスのない一本木沢地域で実験的にバスを運行する。今後も市民の声を聞きながら交通の利便性向上に取り組みたい。

**基本目標8**  
地域経済社会の持続的な発展を支える強固な経営基盤が確立したまち（自治体経営）



**質問** 広報とわだに子ども向けコーナーとして、市内の小学生在が交代で豆知識クイズなどを掲載してはどうか。  
**答弁** 広報とわだでは「図書館だより」などで子ども向けの内容も掲載している。小学生によるクイズなどの記事づくりは、教育委員会や小学校の先生と相談しながら検討したい。